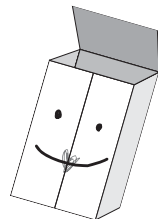


# の 宝箱

## 私



### 韓国の風に吹かれて

牧野 やよい

私には韓国人の大切な友だちがいます。逢うだけで心が癒され信頼できる彼女とは、以前の職場『子育て支援センター』で知り合いました。

韓流スターのクオン・サンウと同じ名字ということが気になり、お子さんを預けに来た彼女に「クオン・サンウと同じ名字ですか。」と声をかけたことが始まりです。私に呼びとめられた彼女が「よく聞かれます。ファンですか。」とおだやかな笑顔で答えてくれたことを今でも覚えています。ちょうど習い始めたばかりの韓国語を使ってみたかった私は「いいえ、カン・ドンウォンのファンです。」と韓国語で返してみました。彼女はびっくりした顔で「韓国が好きですか。機会があったらまたお話ししましょう。」と答えてくれました。これをきっかけに、ドラマを見たり音楽を聞いたりするだけでなく、本物の韓国の世界への扉が開かれたのでした。  
彼女と知り合ってから私の生活はず

い分変わりました。大好きな韓国料理の腕前はぐんぐん上達し、チャプチエ、メウントン、ククス、チゲなどレパートリーも増えました。食器も器だけでなく、スプーンや箸も揃えて本格的です。また、北朝鮮との南北統一へ向けての気持ちや脱北者の現状、拉致問題など、韓国人としての悲しみも教えてもらって理解が深まったように思います。

教会で働く彼女は礼拝のある日曜日が一番忙しく、二人のお子さんを抱えて大変そうなので、お手伝いに行くことにしました。礼拝には韓国人だけでなく中国人やブラジル人の方も通っていましたが、彼女はどの方にもやさしく心を込めて接しているのです。そんな彼女の姿に感動した私はその事を伝えると、「韓国人は情が深い人種だからかな。」と微笑んでいました。それからの私は、自分だけでなく相手の幸せをも願う彼女の人柄に少しでも近づけたらいいなと思うようになっていました。

人と人との出会いは不思議です。私たちは色々な関わりの中でお互いを励まし合い、支え合って生きているのだと改めて思います。

時計が夜の七時を指しました。韓国語教室が始まる時間です。ヨン様が大好きなおば様たちに負けないようあとひとがんばりして、私の長い日曜日も更けていきます。(ひかりの子保育士)

### 絵本の世界

#### 「てぶくろ」

エウゲーニー・M・ラチョウ  
え  
うちだりさ  
やく

國分 央

昨年の冬頃のことです。今年三歳になった娘の口から「のっそりくま」「はいいろいろおおかみ」という言葉が聞かれることが多くなりまりました。何となく聞き覚えのある言葉でしたが、その時は何のことかピンと来ませんでした。

数日後、保育園の連絡ノートを読み、「あつこのことか」と気づきました。保育園で「てぶくろ」という絵本に出てくる動物たちの中から自分の好きな動物を選び、それに扮するという遊びをしていたのです。(娘は、のっそりくまを選んだようです。)

そのノートを読み、家に帰って、物置をゴソゴソ…。一冊の古い絵本が出てきました。それを娘に見せると、目をキラキラさせ、「あー！のっそりくまの本！」

その絵本は、私が小さい頃に読んでいた「てぶくろ」です。早速娘に読んで聞かせようとすると、話の内容よりも「何で破れているの？」などとその本自体への興味

が大きい様子。質問に答えるたびに、「本は破っちゃダメなんだよ」「本にお絵かきしちゃダメなんだよ」と、怒られてしまいました。一通り怒られてからおはなしを読むと娘は驚くぐらい本の内容を覚えていました。

それから、娘は時々自分の本棚から古い絵本を持ってきては、自分でページをめくり、何となく合っているストーリーを話してくれます。

角はボロボロになり、破れたページもある絵本です。裏表紙には、小さな頃の私がクレヨンで描いたはずら書きもあります。娘のもっている他の絵本と比べれば、汚さは一目瞭然です。それでも、私と娘にとっては宝物の絵本です。

(すばる 介護職員)



てぶくろの絵本